

編集後記

今年度の藍野学院紀要 17 巻の投稿原稿の提出は、例年に比べ随分と遅れ、秋になっても数編しか集まっておらず、編集委員長は随分とやきもきしていた。編集委員長は借金取りのように心を鬼にして教員に原稿の提出を何回も催促したところ、年末になって一度にたくさん原稿が手元に届けられた。発表論文の指導をしていただいている増田芳雄客員教授は年末年始もなく、これらの論文の内容について指導をしていただいた。おかげで今年度の藍野学院紀要には和文 14 編の論文を掲載することができた。

私はかねがね高等教育機関のひとつである短期大学においても、学生にただ単に講義するだけではなく、学生が一つのテーマについて研究し、それを発表するまで指導するのが短期大学の使命であると考え、教員にもそのように指導してきた。ここ数年、藍野学院紀要には毎年 2 編くらいの和文または英文の論文が掲載されてきた。しかし今年度は 14 編中 5 編が学生によって書かれた論文である。2 編の論文は看護学科 3 回生の論文である。また 3 編の論文は昨年修了した専攻科学生の論文を指導してまとめたものである。これら 5 編の論文は、野村公寿副学長、中野博重教授、蛭田由美教授、足利学助教授らの指導によって作成された。また増田芳雄名誉教授によって、ことのほか厳しく指導され、学生の論文とは思えないほど立派な論文になった。このように学生が卒業時に卒業証書と一緒に研究論文を持って卒業できることは学生にとって喜ばしいことであり、藍野学院短期大学にとっても誇るべきことだと考えられる。看護系の大学や短期大学でこのような指導をしていることは寡聞にして知らない。

本年 4 月から藍野大学（4 年制）が開校の予定であり、多くの優秀な教員が入職されてくるので藍野学院紀要は質・量ともに素晴らしいものになると確信し、また期待している。最後に藍野学院紀要と AINO JOURNAL の今後の発展を期待している。

（編集委員長：堺 俊明）

藍野学院紀要 第 17 巻

平成 16 年 3 月 15 日

編集兼発行者 学校法人 藍野学院
〒 567 - 0012
大阪府茨木市東太田 4 - 5 - 4
電話 (072) 627 - 1711 (代)

印刷 明文舎印刷株式会社
〒 601 - 8316
京都市南区吉祥院池ノ内町 10
電話 (075) 681 - 2741